

友愛會本所支部講演會案内

世界は今何を考へ何を言ひし、あるか、我々日本の労働者は何を考へ何を言ひし、我々労働者は國家の礎である。我々の考へ我々の言ひは國家の運命にも關するものである。國家を築つて起つ我々は聰明であらねばならぬ。然るに國の事情は無智と行ふと我々に歸している。我々は貧乏退治をせねばならぬ。貧乏退治を爲すには先づ無智の悪魔の手から我々を逃れねばならぬ。労働問題講演會は我々が無智の悪魔の手より逃れ出づる爲めの救場であつて、貧乏退治をする戦場である。國家を築くもの、労働者の不遇を嘆くもの、人道と自由とに憐れ、ものは來れ強つて考へよ考へよ自己の運命を圖らせよ。

■開會之辭 會事 長野 崎 正

■會務報告 常務 支 部 員 佐藤 吉 德

■労働者演説 各 支 部 有 志

■婦人部を代表して 吾 婦 支 部 婦 人 會 員

■時事に感じて 本 所 支 部 藤 庄 治 郎

■生の安定を與へよ 本 部 員 菊 地 喜 市

■世界大勢の轉移 全 法 學 士 藤 生 久

■手段か目的か 全 主 事 松 岡 駒 吉

■産業的平和の基礎 早 大 教 授 北 澤 新 次 郎

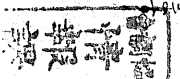
▲日時 六月廿二日(日)午後六時

▲會場 中ノ郷業小町、業平小學校内

▲入場下足無料 どのたでも傍聴歓迎致します

主 催 友愛會本所支部

事務所 押上町百五十五番地



労働問題講演會案内

七月廿六日(日)午後六時半
本所區木平町木平亭
(電車江ノ島橋上車止り約六丁)

■開會之辭 伊藤 重大 郎

■會務報告 支 部 長 菊 地 喜 市

■新入會式 各 支 部 及 會 員 有 志

講 演

■演題未定 諸 田 俊 一 郎 君

■機械の中心 坂 本 正 雄 君

■労働者と家庭 武 田 芳 三 郎 君

■労働者の責任 添 田 壽 一 君

余 興

■浪花節 正 會 員 押 上 軒 誠 風

■三尺琴全 浪 花 亭 誠 樂

■味線合奏 正 會 員 山 本 春 三

茶 菓 閉 會

注 意

本會員外、他種等、用是、期、也、及、之、等、之、少、事、
ノ、節、ハ、何、人、不、知、入、物、附、録、ス、
ノ、節、ハ、何、人、不、知、入、物、附、録、ス、

主 催 友愛會本所支部

【入場料下足共一切無料】

1929年9月